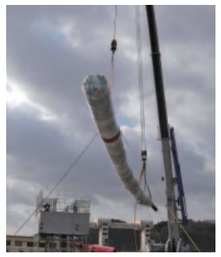
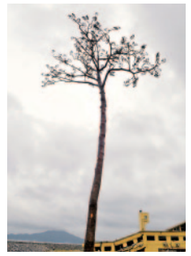
WORK IN PROGRESS
作業の様子

【抜根（平成24年12月）】

【現場設置（平成25年３月）】



【「奇跡の一本松」保存事業完成式（平成25年７月３日）】



DONATION
「奇跡の一本松保存募金」について

陸前高田市では、枯死が確認された奇跡の一本松を今後も復興の象徴として後世に受け継ぐため、一本松に人工的な処理を加え、モニュメントとして保存することとしました。整備にあたっては多額の費用が必要ですが、市では被災した市民の生活再建が優先と考え、保存事業は一本松の保存を願う皆さまからの募金によって行うこととし、「奇跡の一本松保存募金」として全世界へご協力をお願いしました。

平成24年７月より開始した「奇跡の一本松保存募金」は、世界中からあたたかいご支援をいただいております。多くのご支援、ご協力に感謝申し上げます。

※表紙左上および左下の写真は、東海新報社発行「こころの情景」より提供。

1PPON MATSU

陸前高田市企画部まちづくり戦略室
〒029-2292 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5　TEL：0192-54-2111（内173）
E-mail：senryaku@city.rikuzentakata.iwate.jp
HP：http://www.city.rikuzentakata.iwate.jp/
facebook：https://www.facebook.com/RikuzentakataCity

奇跡の一本松

THE MIRACLE PINE TREE

高田松原と奇跡の一本松

TAKATAMATSUBARA
高田松原

白砂青松の高田松原は、市民はもとより県内外の来訪者から四季を通して愛される場所でした。約350年前から先人たちが植林を行い、市民の手で守り育ててきた高田松原。その美しさを多くの詩人が詠み、昭和15年には国の名勝に、昭和39年には陸中海岸国立公園に指定されました。夏には海水浴客でにぎわい、松に囲まれた遊歩道は市民の憩いの場所でした。また、多くの動物や希少植物が存在し、多様な生態系が育まれていました。高田松原は、まさに陸前高田市の象徴とも言える存在でした。

白砂青松の名勝高田松原

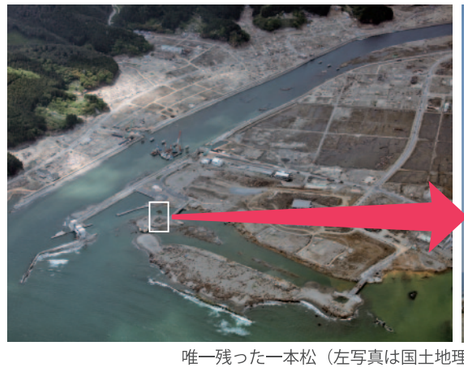
石川啄木の歌碑

海水浴の風景

THE MIRACLE PINE TREE
奇跡の一本松

平成23年３月11日、陸前高田市を地震と大津波が襲いました。死者、行方不明者は2,000人近くにのぼり、市街地や海沿いの集落は壊滅しました。過去の度重なる津波から高田のまちを守ってきた、約７万本と言われる高田松原もほとんどが流されてしまいましたが、その中で唯一耐え残ったのが、高さ約27.5m、幹の直径約90cm、樹齢はおよそ170年といわれる「奇跡の一本松」です。

津波に耐えて奇跡的に残った一本松でしたが、海水により深刻なダメージを受け、平成24年５月に枯死が確認されました。しかし、震災直後から市民のみならず全世界の人々に復興のシンボルとして親しまれてきた一本松を今後も後世に受け継いでいくために、陸前高田市ではモニュメントとして保存整備することといたしました。



唯一残った一本松（左写真は国土地理院より）

在りし日の高田松原と一本松

奇跡の一本松保存プロジェクト

概要 OUTLINE

委託業者	株式会社乃村工藝社（のむらこうげいしゃ）
保存方針	①一本松の各部分は可能な限り残し、屋外展示に耐えうる保存処理を実施する。上部枝・葉部分は型取り後レプリカを作製する。 ②自立構造体とし、主構造体は高強度が期待できる炭素繊維強化樹脂複合材料（CFRP）を使用する。 ③自立構造体のため根部分はコンクリート基礎とし、根は別途保存処理を行い将来に向け保存する。
作業工程	平成24年９月12日、13日　伐採、搬出作業 平成24年９月中旬～　防腐、保存作業 平成24年12月上旬　抜根作業 平成25年３月上旬　現地設置作業 平成25年５月～６月　修正作業（枝葉の取付角度を修正） 平成25年６月末　保存工事完了 平成25年７月３日　「奇跡の一本松」保存事業完成式

作業の様子 WORK IN PROGRESS

【伐採（平成24年９月12日、13日）】

【幹のくり抜き作業（平成24年９月～11月、愛知県弥富町にて）】

【枝の型取り（平成24年10月～12月、神奈川県相模原市にて）】